

環境教育揭示用教材 指導資料

環境教育揭示用教材は、児童・生徒に、環境に対する豊かな感受性や探究心、環境に関する思考力や判断力、環境に働き掛ける実践力など、私たちを取り巻く環境に着目し、持続可能な社会を構築していくための資質・能力の育成を図ることを目的として作成した教材です。

本指導資料では、環境教育揭示用教材の授業等での活用例を紹介します。

環境教育揭示用教材の活用例

環境問題について調べて、自分にできることをやってみましょう。

食品ロスをなくすために私たちにできること

①表題



②ねらい

食品ロスを削減し、持続可能な社会をつくろうとする態度を育成する。

③環境教育で対象とする主な内容 (ESDの構成概念)

資源の循環 (相互性)、自然や生命の尊重 (多様性・公平性)、生態系の保全 (相互性・責任性)、共生社会の実現 (多様性・連携性)、生活様式の見直し (責任性)
 ※環境教育指導資料 P8、P9 参照

④主なSDGsとの関連

【SDGs12】 つくる責任つかう責任 (小学校・中学校共通テーマ)、
 【SDGs 2】 飢餓をゼロに、
 【SDGs14】 海の豊かさを守ろう、【SDGs15】 陸の豊かさを守ろう、

⑤主な活動

活動内容 (○主な活動)	教師の支援 (◇留意点)	◆揭示用教材等との関連
○揭示用教材①を見て、食品ロスについて話し合う。 ○揭示用教材②を見て、食品ロスをなくす取組について考える。 食品ロスが起きる原因	◇食品ロスについて理解させる。 ◇食品ロス削減の取組を理解させる。	◆揭示用教材① ◆環境教育指導資料 P52～ ◆揭示用教材② ◆ワークシート①
○揭示用教材③を見て、各過程で食品ロスが起きている状況を整理する。 ○各過程において食品ロスが起きる要因、また、それらを減らす自治体や企業の努力等について個人やグループで調べ、学級全体で話し合う。 ○揭示用教材④を基に、世界の食料状況を学級全体で話し合う。	◇イラストを参考に、農業生産から消費までの全ての過程で食品ロスが生じていること、農業生産の他に漁業生産においても食品ロスがあること、その合計が約612万トンになることを理解させる。 ◇食品ロスについて自分事として捉えられるよう、自分の生活との関わりや自分自身の生活における現状について考えさせる。 ◇写真を参考に、多くの食料が廃棄されている一方で、飢餓に苦しむ人々が世界にいることを考えさせるとともに、食品ロス削減の世界の取組を理解させる。	◆揭示用教材③ ◆ワークシート② ◆環境用教材④
○揭示用教材⑤を参考に、自分や家庭でできることを考える。 ○気付いたことや感想を発表する。	◇食品ロスをなくすために、自分にできることを考えさせる。 ◇児童一人一人が地球環境保全につながる生活を心掛ける必要があることに気付くよう、活動を振り返らせる。 ◇【SDGs14】、【SDGs15】にも必要に応じて触れる。	◆揭示用教材⑤ ◆ワークシート③

※環境教育指導資料は、令和2年3月に各学校に配布した冊子です。
 ※東京都教育委員会ホームページで、環境教育指導資料及び本揭示用教材のイラストや図表等を公開しており、拡大して授業等で活用できます。

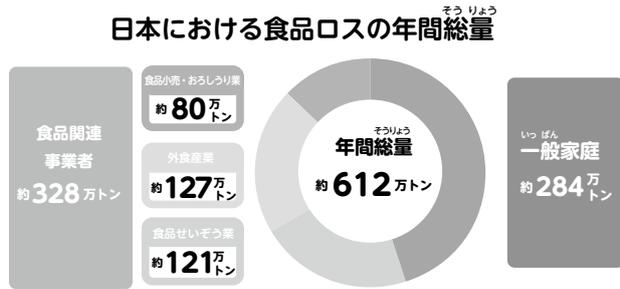


かんきょう
環境問題について調べて、自分にできることをやってみましょう。

食品ロスをなくすために私たちにできること

年 組 名 前

①日本の食品ロスと、それをなくすための取組について調べてみよう。



②食品ロスが起きる要因やそれらを減らす自治体や企業の努力について調べてみよう。



③食品ロスをなくすために、自分や家庭でできることを考えてみよう。

